

クリスマスカード



Christmas Card

届いたカードは、しまい込まずに飾って楽しんで



誕生日や結婚記念日、バレンタインデーなど、折あるごとにカードを送り合う習慣のあるイギリス人にとって、中でもクリスマスは、最もたくさんのカードを送ったり、送られたりする機会です。Eメールを使った電子カードもポピュラーになってきてはいますが、やはり、二つ折りになった紙製のカードを送る人のほうが圧倒的に多いといえるでしょう。

イギリス人は、届いたクリスマスカードをマントルピースの上に飾ったり、壁に少しわめた紐を渡して、二つ折りカードの山になった部分をその紐に引っ掛けて飾ったり、あるいは、カードホルダーを壁に貼ってそこにカードを挟んだりして、クリスマス期間中楽しめます。皆さんも彼らを真似て、今年のクリスマスには届いたカードをお部屋に飾ってみてはいかがでしょうか？

ところで、イギリスで最初にクリスマスカードが送られたのは、1843年のこと。John Calcott Horselyという人物が描いた、イギリス人家族がクリスマスを祝つて

いる様子の絵柄だったそうです。また、ロイヤル・メールによるクリスマス用の特別切手の発売は1966年から始まり、現在では、毎年4億8000枚以上ものクリスマス切手が発行されています。今年もすでに11月7日からクリスマス切手の販売が始まっていますが、今年の図柄は何と日本人イラストレーター、木内達朗さんの作品が採用されています。インターネットでも購入可能ですので、クリスマスカードは、ぜひこの切手を貼って送ってみませんか。

*ロイヤルメールウェブサイト(クリスマス切手)

www.royalmail.com/portal/rm/shop

*クリスマスカードの投函期限

- イギリス国内(First Class) 12月19日(火)
- イギリス国内(Second Class) 12月16日(土)
- 国際エアメール(日本、アメリカ、カナダ、東欧など) 12月11日(月)
- 国際エアメール(西欧) 12月13日(水)
- 国際エアメール(その他の国々) 12月8日(金)



クリスマスツリー

Christmas Tree

ツリーの下にプレゼントが並ぶ様子は物語に出てくるイメージそのまま!

イギリスで最も有名なクリスマスツリーのひとつといえば、毎年トラファルガー・スクエアに飾られるツリーでしょう。これは1947年以来、毎年ノルウェーのオスローから贈られているもので、今年のトラファルガー・スクエアでのツリー点灯式は12月7日(木)。今年は、オスローからツリーが贈られるようになってちょうど60年の記念に当たる年なので、いつも以上に点灯のセレモニーが盛り上がりを見せることが予想されます。

ところで、肝心のイギリス家庭でのツリーですが、だいたいリビングルームの暖炉の側などに飾られ、思い思いのオーナメントで彩られます。ツリーの天辺には、星か天使を飾るのが一般的。そして、ツリーの下にはクリスマスプレゼントが並べられます。ツリーは、プラスチックのものも多く見かける一方で、本物の木を飾っている家もまだまだたくさんあります。環境問題が注目されている昨今、クリスマスツリーに本物の木を使うことへの反対も起こってはいるようですが、伝統的なものにこだわりたいというイギリス人が多いのも事実。もし、皆さんも本物の木をツリー用に購入するのであれば、あまり大きくない鉢植えのものにして、クリスマス後は庭に植え替える、というのはいかがでしょうか。あるいは、処分するにしてもゴミ処理にまわすのではなく、地元のカウンシルや、ガーデンセンター、公園などでリサイクル利用をしてもらうところがないか、確認してみるようにしてください。



英国に住んでいるからこそ知りたい!

フツのイギリス人の クリスマスの過ごし方

クリスマスまではまだ1カ月もあるというのに、例年のごとく、イギリス中、クリスマスカードやクリスマスグッズがあちこちで売られ、クリスマスムードが高まっていますね。ところで、皆さんは、イギリス人家庭のクリスマスをのぞいてみたことはありますか？ 日本のお正月にもたとえられるように、イギリスのクリスマスは、家族が一同に会する、1年のうちでも最大の家族イベントと言えるものです。今週のUKジャックでは、クリスマスに先立ち、イギリス流のクリスマスの楽しみ方を、10のトピックにわたってお届けします。

Text&Photo:Mami McGuinness (www.mamimcguinness.com)



クリスマスプレゼント

Christmas Present

大人だってやっぱりうれしい。 クリスマスのメインイベント



ツリーの下に並べられたプレゼントは、25日の朝、家族が揃ったところで包みをあけます。家族のメンバーのうち、だいたいおじいさんかお父さんが、プレゼントに貼ってあるタグに書かれた名前とメッセージ(e.g. "Dear Jim, wishing you a very happy Christmas! Lots of love, Dad & Mum")を読み上げて、ひとつひとつプレゼントを渡します。プレゼントを受け取った人は、すぐにその場で包みを開き「うわあー、これ、欲しかったんだ」「すっごくラブリー! ありがとう」などと、感想やお礼を言います。この時、たとえプレゼントがすでに自分の持っているものだったり、あまり気に入らないものだったとしても、笑顔で喜んでみせるのがイギリス流マナー。また、プレゼントは、1人に対してひとつだけ、というよりは、2つ、3つと複数贈るのが一般的です。もちろん、

すべてのプレゼントが高価なものである必要はありません。小さなキーホルダーや、靴下などといった小物でかまわないのです。でも、どんな小さなものでも、必ずひとつずつ別々にラッピングしましょう(プレゼントには宛名のタグを忘れずに!)。イギリスのクリスマスプレゼントは、その包みをあける瞬間も楽しみのひとつ、いえ、もしかしたら、その「瞬間」の方が、プレゼントの中身より大事といえるくらいなのです。

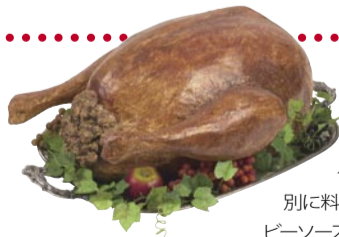
小さな子どもたちのところには、もちろん、夜中にファーザー・クリスマス(サンタクロース)がやってきます。子どもたちは、暖炉やベッドの側に靴下などを吊るすのと同時に、寝室のドアの前に、ミンスパイやグラスに入れたシェリーやブランデーなどを、サンタさんのために置いておくのだそうですよ。



クリスマスディナー

Christmas Dinner

伝統的ローストターキーのディナーは、今も人気



クリスマスのメインのひとつは、家族でテーブルを囲んで食べるクリスマスディナー。ローストターキーがそのメインコースだというのは、ご存知の方も多いと思います。中世の富裕層の間では、クジャクや白鳥を食べることがあったようですが、その後、ビーフやターキーを食べる家庭が多くなり、ヴィクトリア時代には、多くの人々がクリスマスにはターキーかガチョウを食べるようになったそうです。

さて、そのローストターキーに付け合わせるものとしては、ローストしたポテト

やパースニップ、茹でた人参やブロッコリー、芽キャベツといった野菜類のほか、ベーコンを巻いたソーセージや、スタッフィングと呼ばれる、ハーブやブレッドクランブルを混ぜたもの(以前はこれを、ターキーのおなかに詰めてローストしていましたが、現在では、ターキーとは別に料理して、後から付け合わせる家庭が多くなっています)。それらにグレイビーソースやブレッドソース、クランベリーソースなどをかけていただくのが一般的です。

ちなみに、ここでクリスマスディナーと呼んでいる食事は、必ずしも夜に食べるというわけではなく、ランチタイムにクリスマスディナーを食べる家庭もたくさんあります。日本では勘違いされている場合も多いですが、「ディナー」とは、「夜に食べる食事」という意味ではなく、「正餐」「一日の中で最もごちそうのある食事」という意味です。

